

<原著>

全米セラピューティックレクリエーション協会に対する
上部組織の影響

堀田 哲一郎¹

The Influence of the Umbrella Association on the National
Therapeutic Recreation Society

Tetsuichiro Horita¹

Abstract

Historical problems between the relationship of NTRS and NRPA mainly developed from the NTRS financial dependence on the NRPA and the limited influence and extent of programs offered by NTRS, as well as its degree of representation. NTRS had continued as a branch of NRPA because it wanted to focus on sharing a unique common identity with NRPA. In addition, it would like to concentrate on the delivery of special programs with them. The economic problems of NRPA caused the increase of membership dues and project restrictions (i.e. its publications). The action of the Executive Director of NRPA, John Davis worsened the relationship between NTRS and NRPA. It was not until R. Dean Tice had been installed as the new Executive Director of NRPA in 1986, that budget and communication problems improved for the NTRS. NRPA facilitated its partnership with NTRS, and the legislative coalition began to function better, including its influence on the ADA, which the existing president of NTRS praised.

1. 問題設定

堀田 (2001)¹⁾において、全米セラピューティックレクリエーション協会(以下"NTRS"とする)が、上部組織である全米レクリエーション・公園協会(以下"NRPA"とする)の経済的困難により、要員の削減という影響を受けたり、立法活動の代表性における制約を受けていたことが明らかにされた。その後筆者はアメリカにおいて、NRPA自体が出版している文献のなかで、NTRSがどれほど上部組織であるNRPAからの影響を受けていたかを示しているもの(O'Morrow, G.S., (1991) *National Therapeutic Recreation Society, A branch of the National Recreation and Park Association, 25th anniversary, a historical perspective, 1966-1991, the National Recreation and Park Association*; 以下『25

年史』とする)を入手することができた。本論文では、それを用いて、堀田(2001)が十分明らかにしえなかったNTRSとNRPAとの関係の歴史的問題点をより詳細に描き出すことを目的とする。

2. NTRSの活動におけるNRPAの影響の推移

『25年史』の「あとがき」のなかで、「協会[NTRS]の影響及びプログラムの範囲の両方への制限があった。上部組織[NRPA]からの資金面での依存のために、設定されたプログラムの種類や、協会の論争的主題に関する意見表明の度合いが影響を受けていた²⁾」と述べられている。問題は、主としてNRPAからの資金面での依存にあり、そ

のことがNTRSに影響し、プログラムの範囲への制限、NTRSの意見表明の度合いにも関連していたということである。ここでは、その推移を整理しておきたい。

まず、1967年にシカゴで開催されたNTRS役員会の2回目の会合の間、財務問題に関する解決として、NTRSへの会計及び財務代理人として、NRPAを指定することを可決された。そのことが、数年の内にNTRSに深刻な問題を提示するものになったのであった³⁾。

1969年にシカゴで開催されたNRPA大会/NTRS研修会で、専門職組織としてのNTRSの将来が論議された。直前の会長であったウィリアム・L・スミス(William L. Smith)は、NTRSの進歩が緩やかで、本業及び専門的問題の対応においてあまりに保守的であると感じていた。NRPAは、会員サービスを定義し、その過程を実施することに関心があり、NTRSの将来に配慮することには関心がなかった。スミスは、NTRSが独力でNRPAに対処できるとわかり、専門職主義に影響を与える課題に、より多くの注意を払わなければならないと感じていた。彼は、NRPA及びその他の専門職組織と協同して、NTRSへの指示に役立つ長期目標を考慮するに当たり、専門的プログラムの作成及び実施時の直接関与へのニーズを示す作業で継続した⁴⁾。

1971年までNRPAは、財務的困難を経験し、結果として、財務的自立を達成するための新しい料金構造及び会員サービス方式を実施した。しかし、NTRS役員会は、新しい料金構造を支持しなかった一方で、NRPAによってNTRSに提供された支援サービスの欠如へ関心が示されたこと、立法問題に関するNRPA活動の欠如による影響を受けていたことが指摘されている⁵⁾。

1972年頃、NRPAは経済的問題に直面しており、その運営経費は、年々増加し、追加的な収入が見出されなければ、赤字財務が例外よりむしろ通例になると指摘されていた。その問題を解決するために、会費が2倍に増額され、下部組織の会員も倍額が請求された⁶⁾。予算削減及び組織的危機が継続する暗雲の下で、NRPA内及び個々の下部組織予算の作成には、かなりの時間が費やされた。NRPA会計年度が変更された結果として、2

通りの予算準備が必要となった。予算制約のために、NTRSが開始・継続していた予算の優先権を望んだ企画(例:出版他)を明確にする必要があった。同時に、NTRS事務員及び役員は、他の下部組織役員会と一緒に、NRPA予算全体を検討し、事後評価する機会を与えられた。NTRS役員会は、NRPAの予算配分への支持を表明した一方で、NRPAへの大きな投資で、NTRSを始めとし、他の下部組織の効率性を強化・改善しなければならないと感じていた。しかし、2年目に『セラピューティックレクリエーション(以下"TR"とする)年報』は出版できなくなり、『全米TR1973年鑑』の出版は行き詰まった。

1971-74年の間、NTRSの活動は、NRPAの予算削減及び運営的再組織化のために制約を受けた。しかし、一方で、振り返ってみると、その問題は、当時予期されたほど大きくはなかった。この時期も、NTRSは、2-3年間は、緩やかな比率で成長し、発展し続けた。また、それまでになく会員の多くが、NTRSに関与するようになり、NTRSを閉鎖的なものから公開的なものへ変化させることになった⁷⁾。

1974年にNTRSは、将来の目標及びNRPAに関する勧告を検討し、作成するための目標委員会を設定した。そしてNRPAのすべての下部組織及び会員は、情報を有する機会を提供された。NTRSも、適切な職員支援により、『TRジャーナル』の出版、登録プランの管理の他のニーズに合致する場合には、NTRSは、NRPAの再組織化を支持することになった。そして、NRPAによって削減されたプログラム及びサービスの影響で、資金水準が到達されず、下部組織事務局長の整理統合のために、NTRSの事務局長は、再び陸軍レクリエーション協会(AFRS)下部組織でパートタイムで仕事をしなければならなくなった⁸⁾。

NRPAの目標委員会報告では、NRPAの組織的、運営的構造について言及し、すべての下部組織との関係は、1976年大会の終わりに解消された。そして、公式書面及び口頭手続により、下部組織の資格を再申請しなければならなくなった。

同じ頃、NRPA全米協議会及び理事会への復職について、NTRS役員会は、NRPAの下部組織であることを認めた。TR専門職は、自分たちの同

僚と共通の認識、関与、利害、関心を共有しながら、その専門性が、特別な環境や特別なプログラムに属している特別な人々へのサービスの提供に焦点を当てており、それらの特別なサービスの提供が、政府の保健及び任意当局の多様性との効果的な相互関係/連絡役の発展及び維持、適切な関連グループとの連合における立法推進及び活動の促進、様々な保健/教育サービスに適切な特定の基準/規準の開発及び実施、一般的な余暇/レクリエーションサービス技能を超えた特定の専門別化された適切な職員能力開発、特別な人々及び特別な環境に適切な情報及びプログラム資料の開発及び普及等への関与及び関心を必要としているとNTRSは考えていた。

NRPA 理事会はまた、予算及び経費運営に関して、下部組織からの情報を要請した。NTRSは、目標委員会が概説したサービス及び要員配置の経費分析に基づいた予算を作成するために委員会が任命されるように勧告した。

この年、NTRS 事務局長でもあったデビッド・C・パーク (David C. Park) は、NRPA を辞任し、イボンヌ・A・ワシントン (Yvonne A. Washington) が、NRPA の新しい運営上の構造について承諾した。

新しい役員会は、後任のリー・L・メイヤー (Lee L. Meyer) 会長とともに、多くの問題を検討した。興味深いできごとは、最初の会合で、役員1人が、下部組織構造から部会構造へ変更するために、「セラピューティック部会」へ下部組織の名称変更を提起したことであった。その動議は阻止された。

この役員会会合の間、TR に関する原理的声明 (philosophical statement) を作成するための委員会が設置された。これは、NTRS の自己検討への対応策として開始された。NRPA 目標委員会は、将来の目標及び方向に関して下部組織を調査してきた。

NTRS の自己検討委員会は、1977年1月にその成果を報告した。公園及びレクリエーション運動の計画及び目標全体へのTRの寄与が列挙された。同様に、NRPA 内でのNTRSの機能及び目的が提示された。メイヤー会長によると、NRPA 執行委員会からの所見は、非常に喜ばしいものであった。その報告の結果として、メイヤー会長は、

重要問題事前評価に関する会長付属委員会を推進し、それはガリー・M・ロブ (Gary M. Robb) 会長によって続けられた。

同じ頃、NTRS の主催活動で調達した資金をNTRSの管轄に置くことを要請した件が解決された。また、NRPAの財務的制約がNTRSの全体の活動を抑えてプログラムに優先順位つけたもの一方で、多くのプログラムは機能できた。そして、下部組織としてのNTRSは、その年にNRPAの下部組織に再び組み込まれた⁹⁾。

1978年の新役員会の初会合の主要な焦点は、ロブ前会長によるNTRSとNRPAとの連合プラン報告であった。その報告に続き、ロブは、NRPA理事会のNTRSの提言を伝えるための信任投票を受けた。そのプランは、理事による助言の下で諮られたものの、結局、却下された¹⁰⁾。

同年には、NRPA大会でNTRS研修会を支援する外部資金を求めたこと、ロブ会長及び委員会が、NRPAとの連合結成プランを交渉するためにNRPA理事会代表及び常務役員と会合するという勧告が全員一致で可決された。その勧告は、会員及び予算的な課題のNRPAのサービスに対するNTRSの継続的な不満の結果であった。また、資金の制限にもかかわらず、NTRSは、専門職業業務を意識し、目標を作成し、活動を遂行することに人目を引こうとした。認証研究班 (重要問題委員会) は、NTRSの登録プログラムがどのようにして全米保健公認当局 (NCHCA) によって認識されたかを論議するために、全米保健公認当局との予備的な会合を開催し、当局に認識されるために、運営上独立していなければならないこと、すなわち登録プログラムがNRPAから分離されなければならないと示されたことが指摘されている¹⁰⁾。NRPAの新しい予算構造が、年俸に基づいて実施されても、財務問題は、NRPA内で依然として存続していた。NRPAの財務問題は、下部組織へのプログラム及びサービスへの数及び範囲に影響を及ぼした。NRPAの下部組織連絡役へ援助するために、常勤秘書が要請された。当時のジェラルド・S・フェイン (Gerald S. Fain) 会長は、NRPAと特別企画歳入プログラムについて交渉した。そのプログラムは、NTRSに、歳入のある生産的な企画を開始し、NTRSの役員会の裁量で支出される

制約付きの資金勘定の設定を承認した。その歳入一部は、あらゆる企画に関わる諸経費として NRPA 一般資金へはいり、残りは、NTRS の特別資金にはいることになった¹¹⁾。

各下部組織の主要な目標の1つは、良質の出版物を会員に提供することであるが、『TR ジャーナル』の出版の質には、疑義が唱えられた。1978年の年次集会では、『TR ジャーナル』の内容が良質か、全くそうでないかを NRPA で投票することであった。

1978年には、新しい『大学間専門的実験体験への基準及び指針』の承認、4年間の教育課程内容領域におけるそれらの包摂への勧告に脚光が当てられ、それもまた承認された。同年、NRPA 登録役員会は、TR 職員への単独登録団体としての NTRS 登録プログラムを承認した¹²⁾。

1982-1983年は、NTRS の歴史において、NRPA との間で起こった内紛「不満の時期」に当たる。1985年10月までに、その内紛は収まり、前向きな行動が期待された。1982年前後も、NTRS は、専門職主義への成長及び発展を続けた¹³⁾。

この時期の資金の欠如は、いくつかのプログラム及びサービスの拡大を妨げ、NTRS を特別な関係グループ以外の何かとみなすような NRPA の失敗は、専門職組織としての NTRS の機能を阻害することになった。資金問題は、要員や任務の再配分と一緒に、『会報』の発刊を中止の対象に到らしめ、その後、会員サービスに影響を与えた。その後、下部組織の年度中間集会で、NRPA 理事会の執行委員会は、すべての下部組織の会報を継続することを決定した¹³⁾。

当時、NTRS は、NRPA 内に留まるべきか、分離した組織になるべきかで苦闘していた。ロブ元会長は、NRPA 理事会での NTRS の代表としての任期を終えており、NTRS 及び NRPA に関し熟慮し、将来のための腹藏のない示唆を提示した。その内容は、NTRS 内の徹底的な論議を中止し、財源、人事、すべての支援サービスを中止すること、TR の対象者が実際にレクリエーション及び余暇サービスに十分な参加資格が与えられ、それらの機会を保障することが NRPA の責任であること、NRPA が公園及びレクリエーション分野への幅広い公的権利擁護に基づいた組織であり、専門的プ

ログラム及び関心が、多くの組織的機能の1つにすぎないという事実を認めなければならないことであった¹⁴⁾。

1983-84年のアン・ジェームズ (Ann James) 会長の任期には、いくつかの問題で NRPA と肯定的な関係をもつようになった。他方で、NRPA との摩擦の原因になり続けた問題もあった。NRPA と NTRS との有意義な関係の前進は、NTRS の立法・規制上の問題解決方策に対応するために NTRS 立法委員会を NRPA が招集することであった。また、NTRS のコンサルタントとしての代理人及び政府問題担当者が NRPA との契約上の配置されたことも、肯定的な前進であった。これらは、NTRS の立法問題の重要性を NRPA に認識させた前年の投資委員会報告に伴う結果であった。

これら数少ない努力は、状況の悪化によって相殺された。NRPA 常務役員ジョン・デービス (John Davis) は、キャロル・A・ピーターソン (Carol A. Peterson) 元会長による「優先順位及び義務の問題」と題した論文の『TR ジャーナル』への掲載を拒否した。その論文は、NRPA 及び NTRS の組織構造と、NRPA の体制下における臨床的 TR 者の関心を考察していた。この行動は、NRPA 及び全米 TR の事務員、常務役員、『TR ジャーナル』編集長の間で多くの自説に固執した論議や書簡を行き交わさせることになった。メイヤー元会長は、その論文だけでなく、NRPA と NTRS との関係全体に関係したデービスへの書簡において、「状況は…より深く長年にわたる関心の徴候となっている…」と論評していた。その論文は、結局印刷されたが、関係に再び緊張をもたらした。

この年は、NRPA 内のサービス管理のための NRPA 自体によって開始された優先順位の高い企画の確認や、全米 TR 週間を毎年指定、全米リハビリテーション会派集会へのリハビリテーション施設認定委員会連絡役と常務役員デービスの参加が挙げられる。

NTRS へ代替する可能性は、年次集会では公式の論議段階には到達しなかった。その年の NRPA 執行委員会会合と、役員会での論議や行動は、何も起こらなかった。NRPA 執行委員会の態度は、NRPA 長期立案委員会の活動を妨げている理事会の態度からもわかる。

NTRS と NRPA との間の確執は、プログラム拡大及びサービスのいくつかの縮小につながったが、全体的な進歩は、あまり大きく妨げられなかった。

この時期も、NTRS 会員は、わずかに増加し続けた。NRPA は、NTRS の立法や行政的問題において、大きな関心を持ち続けた。特記事項として、ジョン・シャンク (John Shank) が立法委員長を務め、障害者への総合的レクリエーションサービスを保障するための立法行動のために他の組織や人々とともに活動したことが挙げられる¹⁵⁾。

1984年の顕著なできごとに、NTRSの最新の保健ケア及び立法の関係で、NRPAを援助するTR専門職のラッド・コルストン (Ladd Colston) を任用するために、NRPA理事会のメンバーであるアン・クローズ (Anne Close) がNRPAへ20,000ドルを寄付した事実が挙げられる。当時の役員会メンバーの間での論争となる項目は、予算であった。1985-1986会計年度のNTRS予算は、NTRS予算委員長またはNTRS執行委員会との相談なしに、NRPA理事会によって変更された。年次役員会会合では、NTRS役員会を統制して承認させる形で、NTRSへの配慮や、NRPAの援助を引き下げる変更と一緒に、一連の勧告がなされ、可決された。

その年の中間集會では、代替組織の構造を方向づける文書を地位文書研究班 (Position Paper Task Force) に作成させる動議が可決された。その文書は、NTRSとNRPAとの間の関係についての歴史的理解を含んでいた。NRPA常務役員からのNTRSのジェリー・G・ディカソン (Jerry G. Dickason) 会長への書簡は、その集會におけるNTRS行動についてきわめて批判的であった。そして、その年の後半に、レイ・ウエスト (Ray West) 役員が辞任した。ウエストは、第三者団体償還及び保健ケア問題について見識が深く、彼の辞任は不運であった¹⁶⁾。

ディカソン会長の任期中、NTRSはNRPAの行動によって苦しめられたので、退任時の所感において、NRPAを酷評した。ディカソン会長は、NRPAが、NTRSの関心に無関心であると感じていた。彼の意見では、NTRSが、専門的認識、財源の2つの点で、NRPAに無視されていた。

NTRSにとって極度に重要な問題 (例：保健ケア問題) について、NRPAがNTRSの指導に失敗した点について、彼は、1つの事例を示した。財務には、プログラム及びサービスを拡大するための資金の継続的欠如、NTRSの事務員との相談なしにNRPAの裁量でNTRSの予算を変更した点を指摘した。ここに到って、かなりあからさまにNRPA支配へのNTRSの反発が表れていると言える。

この「NTRS会長の伝言」によると、NPPA常務役員データベースによる検閲は1985年大会前のNTRSの『会報』発行時に起こった。その『会報』は、会員への配布を差し止められた。その『会報』には、NRPA大会期間中に開催されるNTRS研修会及び他のTRの会期の情報を含んでいた。NRPA常務役員は、NRPA出版物として扱われるNTRS資料が、出版に先立ってNTRS会長によって承認または除去されるNTRS勧告に対応しつつも、その勧告に敬意を払う状況にはないことを示した。事実、データベースは「われわれNRPAは、融通が利かず、過程を指図し、除去を進める方針及び手続を単純に許可することはできない…」と述べた。

ディカソン会長及び役員会が、NRPA問題に直面した最中に、別の問題がNTRSの内外で発生した。TRを理解し関心のある理事が欠如していることや、実践者のニーズに合致しないNTRS、自律性の欠如等の根本的課題に加えて、NTRSがNRPAから受けていたサービスに、様々なメンバーがだんだん不満になっていた。結果として、1984年にアメリカTR協会(ATRA)が設立された。その会員は、大部分、2つの専門職組織に所属していたNTRSメンバーから成っていた¹⁷⁾。

1985年は、NTRSの時間の大半が、NRPA理事会の執行委員会から受けた報告への対応に費やされた。つまり、NRPAによる『会報』季刊第4号差し止め、NTRS出版物検閲等である。要するに、その他のNRPAの編集方針に関連した問題に関して、NRPAを非難するNTRSの勧告を受入れなかったことを示していた。当時のNTRSのデビッド・M・コンプトン (David M. Compton) 会長は、NRPAに協同するため、NTRSが関与する方針を表明するとともに、編集方針に関するNRPAの

行動に NTRS が不満であったことを述べた。

NTRS 役員会の代表の任をなさず、乏しいコミュニケーションの結果として、1985-1986 年度中間集会では、専門職の相互に倫理的品行に関する動議が可決された。その動議には、次のように書かれている。「すべての NTRS 役員会メンバー、委員長、その他の事務員連絡役代表は、彼らが NTRS という原理的で公式の地位の下、適正に NRPA を立場上代表していることをすべてのときに広く宣言しなければならない」。この会合では、NTRS の目標促進のため重要な手順が、方策的立案委員会において NRPA のものと調整する際に取られた。これは、NTRS が NRPA 長期プランを採択し、NTRS の目標立案へ活用していた結果であった。NTRS が TR 専門職及び補助員への認証過程の一部に試験を導入することを全米 TR 公認協議会に要請し、奨励していたのも、1985-1986 年度中間集会であった¹⁸⁾。

1986 年 10 月 16 日に、コンプトン会長は、NTRS 役員会の年次会合を招集した。その会合の結果、コンプトンには、多くの問題が解決されず、積み残されていると見出した。この会合で、彼は、NRPA の新しい常務役員 R・ディーン・タイス (R. Dean Tice) の存在を知ることになった。タイスが NTRS の多年にわたる強力な支持者になることが、そのときはまだ、NTRS 事務員、役員、会員にはわからなかった¹⁹⁾。

1986 年のアナハイムにおける新しい NTRS 役員会の初めての会合で、NTRS のニーズについての情報を提供するために、NRPA 理事会予算及び財務委員会会合に NTRS 予算委員長が出席することを勧告された。この勧告により、NTRS へ好意的な予算や透明性をもたらすことが期待された。1986-1987 年度中間集会の主要な関心は、予算に関する継続案件であった。役員会は、旅行、宿泊、その他の高い経費がもたらす NTRS 本務に積極的に参加する役員会メンバーの負担についてを論議した。結果として、役員会は、会合に出席している役員会メンバーの財務問題を明記する案を可決し、NRPA に事務員への支援優先予算を再び要請した。そして、NRPA 理事会が、下部組織事務員の旅費への償還禁止方針の撤回を求めた²⁰⁾。

1987 年に強調されたことは、規制 / 立法会合や協議会に出席するための NTRS の事務員及び委員長への財務支援を NRPA 理事会から承認の獲得することや、NTRS 役員会の広域役員が、すべて NRPA 広域協議会のメンバーとして承認され、受入れられたことであった²¹⁾。

1988 年にシャンク会長は、立法問題に対する NTRS と NRPA との関与を公式化するために、NRPA 常務役員及び NRPA 公的方針要員と会合したりして、2-3 年の短期間に、かなり有益に前進していた。この会合の結果、方針の指針が、NTRS 及び NRPA によって採択された。それには要員責任、下部組織立法委員会機能、下部組織代表制、連合の関与・形成、NTRS の立法的ニーズに合致するための財源の概略が述べられていた²²⁾。

来るべき年への NTRS 議題に関連して、NTRS のフレッド・ハンフリー (Fred Humphrey) 会長は、『将来への提携』と題した NRPA 1988 年次報告への照会を行った。彼は、NRPA が、排除された対象者との TR、レクリエーション、余暇サービスにも焦点を当てている密接に関連した組織の多くと『将来に向けた提携』を発展させることを求めるであろうと論評した。幅広く立脚した立法連合の発展等のために協同的努力が求められた。NTRS のハンフリー会長は、州協会とのより良いコミュニケーションへのニーズ及び NTRS の課題である少数者の関与を高めるためのニーズについて方向づけた²³⁾。バージニア州アーリントンでの 1988-1989 年度中間集会は、非常に生産的であった。この集会はまた、政府団体の代表に伝えるため、初めて大規模に NTRS の成果を導入した。NTRS 事務員及び役員は、障害者に焦点を当てた立法を論議するために、連邦議会要員と会合した。これには、連邦特別教育・リハビリテーションサービス局要員との会合及び州代表との独自に連邦議会訪問を含んでいた。この立法議事日程は、NTRS と NRPA が育んだ協同的精神の結果であった。立法に関する正規の連邦議会要員と相互交流する機会が、障害者の生活における TR の役割を伝える有効な手段となった。立法へ向けた簡潔な状況説明の結果、第 101 連邦議会に提出されることになったアメリカ障害者法の立法勧告と同様に、NTRS は、書面及び口頭での証言に貢献する

ことを求められた。NRPA・アメリカ余暇・レクリエーション協会認定協議会、NRPA 全米公認役員会、全米 TR 公認協議会、NTRS からの代表が、問題を明らかにし、解決するための会合を行った。それに続き、NTRS 役員会は、前の役員会の行動に従って、TR 専門職への唯一の公認団体として、全米 TR 公認協議会の承認を再確認している²⁴⁾。

NTRS のハンフリー会長の組織相互作用改善の目標の下で進歩がなされた一方で、多くの努力が必要とされた。NTRS における少数者に対して大きく関与しようとする彼の努力は、「少数者関与研究班」の設置によって実現された。実際に、その研究班の目標及びプランは、NRPA 及び専門職全体へ及んだ。NTRS のハンフリー会長は、立法の領域における TR 問題に対する NRPA の努力を称賛した²⁵⁾。

NTRS が、関心及び活動の悪循環を打ち消すために具体的な行動を取ることを記述することは重要である。悪循環は NTRS と NRPA との間での予算的な問題及び乏しいコミュニケーションによって生み出されていた。コンプトン及び彼に続いた人々の行動への青写真の結果として、行動の効果的な過程を決定するための NTRS の可能性を最大化する働きは、勢いを得ていた。NRPA 常務役員のタイスによって維持された「開かれた扉」の方針は、近年における NTRS の達成において有意な要因であった。

3. まとめ

NTRS と NRPA との関係の歴史的な問題点は、主として NRPA から NTRS に対する資金面での依存にあり、そのことが NTRS の影響やプログラムの範囲の制限、NTRS の意見表明の度合いにも関連していた。NTRS が NRPA にかなり振り回されながらも下部組織を続けている理由として、NRPA との共通性を認識した。NRPA とは独自の専門性を活かそうとしたことがあった。NRPA の経済的問題のために、下部組織に会費面で皺寄せがなされたり、出版等の事業の制約に影響が出たこともあった。NRPA と NTRS との関係悪化には、NRPA 常務役員のジョン・デービスの言動も、大いに影響を与えていた。1986 年の NRPA の新しい常務役員 R・ディーン・タイスの就任が NTRS

と NRPA との関係の転換点になり、予算及びコミュニケーションの問題に改善をもたらした。NRPA は、NTRS との提携を推進し、アメリカ障害者法への影響を含む立法のための連合が有効に機能するようになり、NTRS 会長も称賛するに到った。

今後の課題としては、ATRA (American Therapeutic Recreation Association) の委任投票制度が、メンバー直接参加機会の欠如であり、非民主的体質として批判されている実情の解明に取り組んでいきたい。

<本稿は 2010-2011 年度の津曲学園鹿兒島国際大学学外研修長期国外留学の成果の一部である>

註

- 1) 堀田哲一郎 (2001) アメリカのセラピューティックレクリエーション専門職団体による立法運動の展開 - 2つの団体の見解の差異を中心に - 『レジャー・レクリエーション研究』第 44 号。
- 2) O'Morrow, G.S., (1991) National Therapeutic Recreation Society, A branch of the National Recreation and Park Association, 25th anniversary, a historical perspective, 1966-1991, the National Recreation and Park Association, p.53.
- 3) *ibid.*, p.3.
- 4) *ibid.*, p.5.
- 5) *ibid.*, p.8.
- 6) *ibid.*, p.9.
- 7) *ibid.*, p.10.
- 8) *ibid.*, p.11.
- 9) *ibid.*, pp.12-13.
- 10) *ibid.*, p.15.
- 11) *ibid.*, p.16.
- 12) *ibid.*, p.20.
- 13) *ibid.*, p.21.
- 14) *ibid.*, pp.22-23.
- 15) *ibid.*, pp.23-24.
- 16) *ibid.*, p.25.
- 17) *ibid.*, p.26.
- 18) *ibid.*, p.27.

19) *ibid.*, p.28.

20) *ibid.*, pp.29-30.

21) *ibid.*, p.31.

22) *ibid.*, p.32.

23) *ibid.*, p.34-35.

24) *ibid.*, p.35.

25) *ibid.*, pp.35-36.

(受付：2013年4月18日)
(受理：2014年1月23日)